

IUFRO-J NEWS

No. 8

リーゼ会長よりメッセージ届く

去る4月7日の第1回組織委員会以来、第17回世界大会にむけて着々と準備が進められていますが、5月末、佐藤副会長のところへリーゼ会長から日本の会員各位にあてたメッセージが届きましたのでご紹介します。

日本のみなさんへ

第17回ユフロ世界大会が1981年9月6日から12日にわたって京都で開催され、それにひきつづき、日本各地への見学旅行が計画されています。

これまで80年にわたるユフロの歴史のなかで、1971年のアメリカ大会を除けば、すべてヨーロッパで開催されてきました。今回日本が選ばれたことは、私達が、日本における林業の大きな役割と、限られた資源の世界での日本の役割が増大していることを認識したからです。

世界はこれまで以上に森林を多目的に利用しなければなりません。そこで将来に備え、本大会のシンボルテーマを、

明日の森林は今日の研究から！

としました。日本大会はここ数年間のうちで最も重要な

行事となりましょう。そして、日本における、アジアにおける、世界における林業、林産業に大きく貢献するでしょう。

日本の偉大な業績については数多く聞いております。従って世界各国から集まる森林科学者は、日本の皆様の豊かな経験を学び、日本の森林を見ながら、親しく意見を交換できることに大きな期待をもって参加するでしょう。

ここにユフロを代表して、日本大会準備のための皆様のご努力に厚く感謝するとともに、本大会が大成功し、私達にとって有意義でありますようお願いいたします。

では京都で会いましょう！

ユフロ会長 W. リーゼ

—組織委員会の事務局が店開き—

国立林業試験場内の IUFRO-J 事務局に第17回ユフロ世界大会組織委員会の事務局が店開きました。長い間ご不便をおかけしましたが、こんごのご連絡、お問合わせは下記あてをお願いします。

●でんわ： 02987-3-3211 内線 317

万一 317 不在の時は、交換台が関係者の内線におつなぎします。

●郵便宛名： 〒300-12

茨城県牛久郵便局私書箱2号
林業試験場内 ユフロ事務局

—第17回世界大会ニュース欄を新設—

これまでも本誌上で第17回世界大会に関するいろいろな情報をお伝えしてきましたが、同大会組織委員会からのお申出により、こんご本誌面に第17回世界大会ニュース欄を設けることにしました。同時に、ほぼ隔月発行を日安とすることにしましたので、ご意見やお気付きの点などを事務局までお寄せ下さい。なおこの機会に、運営委員から浅川澄彦、同委員会3部会から小沼順一、若林隆三、中野達夫（いずれも林試）の4氏に編集をお願いすることとしましたので、ご紹介します。

第17回世界大会ニュース

JAPAN・1981

はじめに、この期間の大会準備の動きをまとめてみます。6月13日の第1回運営委員会でご指摘のあった点を中心に各部会ごとの検討を行い、6月26日の総務、研究両部会合同集会とそのあと引続いて行われた部会長・幹事会議で結果をまとめました。7月10日の組織委員会の第1回幹事会では、これまでの検討経過が総括的に報告されたあと、第1回アナウンスメントを中心に審議が行われた。ここで提起された問題は、再び各部会の検討をへて7月31日の部会長・幹事会にもちよられ、第1回アナウンスメント(英文)の日本案が一応完成しました。これらの審議と平行して、事務局はリーゼ会長に基本的な考え方を連絡していましたが、7月20日付で同会長の意見が送られてきました。当面、確定したアナウンスメント日本案を会長に送るとともに、9月下旬エジンバラで開催されるユフロ理事会にむけて、会長の意見を考慮したプログラムの代案等を検討することになります。いずれにしても第1回アナウンスメントはエジンバラ理事会での審議をへて最終的に確定されるはずで、そのあと組織委員会に説明してご了承をえたのちユフロ事務局に送付、早ければ年内にIUFRO NEWS(27号の予定)で公表される予定です。

発足が遅れていた募金委員会は、7月上旬、別掲の通り内定、9月には予約を開始できるよう作業が進められています。

一方、協力会を中心とした募金の段取りの検討も着々と進んでおり、募金委員会の活動開始に間に合うよう8月中には必要な資料の印刷を完了できる見通しです。

また冒頭でご紹介したとおり事務局も漸く店開きし、実務を進める体制を完了しました。

委員会の動き

★組織委員会幹事会(第1回)

7月10日(火)午後、農林水産省林野庁分室会議室において、組織委員会の第1回幹事会が開催された。出席は松井委員長、佐藤 IUFRO 副会長、上飯坂、平田、川名、若江、神足、大矢(代理)、水町、舟山、土井、中野、紙野の各委員で、オブザーバーとして林野庁から松田研究普及課長、林、浅田両氏、事務局から岩下、浅川、雨倉の各氏が出席した。

松井委員長の挨拶に引きつづいて、土井事務局長から次のような項目にわけて経過報告が行われた。(1)組織委員、運営委員の追任(別掲)、(2)募金委員会のメンバー紹介(別掲)、(3)因連会議開催経過、(4)協力会関係経緯説明、(5)大会運営組織英名(前号参照)、(6)ユフロ組織の和訳名(別掲)、(7)ポスターセッションの概要説明。

協議事項と討議概要は下記のとおりである。

1. 大会プログラム

前号8ページ所載のようなプログラムについて意見が交換された。特別講演の演者(2,3名の予定)については日本だけから選ぶべきであるという案と、日本・外国を含めて選ぶほうがよいという案がだされた。特別講演だけでなく、日本林業を紹介するようなスライド、映画などを上演する企画が提案された。また日本での開催にふさわしい大会分科会(Congress Groups)を編成するよう積極的にはたらきかけていく方針が説明された。

2. ニクスカーション

部会、運営委員会で検討された13コース(前号8ページ参照)が紹介されたが、ほとんどが4泊5日であるので、短期間乃至は低額のコースを考慮すべきであるという意見がつよく、Exc.部会での検討が要請された。

3. 第1回アナウンスメント

本年末公表を目的に検討を進めている原案が紹介された。参加費について、オスローでの16回大会では600 Nkr(当時1 Nkr≒55円で邦貨換算33,000円)であったので35,000円位が適当ではないかという事務局の意見がだされたが、経済情勢が不安定なのでもう少し早く確定しないほうがよさそうだというのが大方の意見であった。また現在考えられている社交行事の予定が紹介された。婦人行事については、この種の会議の成否が同伴夫人の印象によって影響されるともいわれているのでゆるがせにしないほうがよいという意見があった。

4. 第1回アナウンスメント提案とその後の手順

前項ではかった案について現在リーゼ会長の意見をきいており、8月中旬には日本案を確定して同理事に送付、9月下旬のエジンバラにおける理事会での討議に付される。その後10月上～中旬に最終的に確定し、IUFRO NEWSで公表する予定である。一方、アナウンスメント公表原稿を確定した上で、各部会長に部会別研究集会のプログラムを作成してもらうのに必要な情報を

連絡する。また第2回アナウンスメントは1980年(昭和55年)末までに会員の手元にわたるよう準備する予定である。

5. 予算

第1回組織委員会(4月7日)で大づかみの予算枠が紹介されたが、こんごの準備日程にそって検討した年度別予算が提出された。大蔵省の認可をうけるいわゆる指定寄付金は昭和55年9月6日から昭和56年9月5日の1年間に限定されるため、54,55両年度は深刻な財源難に直面しているが、54年度については、第1回アナウンスメントをIUFRO NEWSに掲載できれば、ユフロ-J基金の借入れ等によって何とか切抜けられる見通しである旨の説明があり、できるだけ経費を切りつめることを前提として予算案が承認された。

6. 基金関係の準備状況

協力で作成する基金趣意書、組織委員会で作成する第17回ユフロ世界大会説明書およびそれらの補足資料とするパンフレットの構想と準備状況が説明された。説明書は7月17日の協力会第3回委員会にむけて検討中の案案が紹介された。

7. その他

大会準備に関連した各種の情報を流すためのメディアとして、ユフロ-Jニュースを利用したいという事務局の提案があり、了承された。

なお最後に、協力会を代表されている若江委員から基金についての考え方と現状が説明され、また松田研究普及課長からは林野庁があげて支援態勢をかためている旨の説明があった。

★運営委員会関係

6. 26 総務・研究部会合同会議(林試)
- 〃 〃 部会長・幹事会(第3回)(林試)
7. 23 研究部会(東大):ポスターセッション・ガイドラインの検討。
7. 24 総務部会(林試):組織委員会第1回幹事会などの報告、参加費の検討など。
7. 30 Exc. 部会(林試):運営委員会、組織委員会幹事会の意向をうけて、2泊3日の一般的な2コースを設定。従来の第11コースを組みかえた林産色の強い一般コースと、国立公園・伊勢神宮林などをみる林業色の強い一般コース(第14コース)である。各コース別に世話役人選の進行状況と、現地にたいする連絡の方針が説明され、こんごの進め方を討議。
7. 31 部会長、幹事会(第4回):各部会の報告。第1回アナウンスメント日本案(英文)の最終検討のあと、こんごの日程、各部会の当面の

進め方を討議。

8. 4 部会長会議:第1回アナウンスメント日本案(英文)の確定、当面の活動方針とそれに要する経費の検討など。
8. 7 確定したアナウンスメント案をリーゼ会長に発送。

★募金委員会発足

協力会、組織委員会が交渉を進めていた募金委員会が発足の運びとなりました。協力会と密接な関係のもとに、9月には基金の予約を開始する予定に必要な資料の準備が進められている。

<委員長>	塩谷 勉	東京農業大学教授
<委員>	石川 茂雄	北海道大学教授
	千葉 宗男	岩手大学教授
	筒井 迪夫	東京農工大学教授
	野々村 豊	東京農工大学教授
	林 大九郎	東京農業大学教授
	菅原 聡	信州大学教授
	片岡 順	名古屋大学教授
	佐々木 功	京都大学教授
	大平 英輔	高知大学教授
	西沢 正久	九州大学教授
	大福 喜子男	日本製紙連合会副理事長
	大矢 奔	日本緑化センター常務理事
	鎌田 勝一郎	全国森林組合連合会常務理事
	木村 晴吉	日本治山治水協会専務理事
	神足 勝治	国際協力事業団参与
	公平 秀蔵	全国木材組合連合会専務理事
	小島 俊吉	日本林業技術協会専務理事
	山田 擴	日本木材輸入協会専務理事
	若江 則忠	日本林業協会常務理事

★協力会委員会

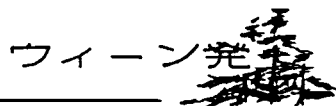
- (第1回) 54. 5. 14 永田町ビル, グリーン倶楽部において開催。協力会々員の拡充, 募金計画について協議。
- (第2回) 54. 6. 19 グリーン倶楽部において開催。募金趣意書などの原案, 寄付金の募集とくに林業団体についての方法等について協議。
- (第3回) 54. 7. 17 グリーン倶楽部において開催。募金の具体的進め方について審議し, ほぼ成案をえた。組織委員会幹事会でアイディアがでた世界大会々場での林業林産関係展示会について具体的な検討を進めることとなった。

★組織委員の追任

募金委員会委員長をお引受けいただいた東京農業大学教授 塩谷 勉氏に組織委員を委嘱した。

★運営委員の追任

林業試験場林産化学第3科長 岩下 睦氏に運営委員を委嘱した。



== IUFRO NEWS No. 23 (1979. 1) 抜粋 ==

第17回世界大会の開催地、期日、シンボルテーマが公表された。CAB/FAO (注、CABは英国農業局の略、Forestry Abstractsなどの抄録を刊行している)の協力で企画されている3か国語林業辞典の作成に協力することになり、第6部会長代理 L. STRAND (ノルウェー)を代表とし、いくつかの研究グループ乃至は関心のある研究者の協力が要請されている。研究集会の運営方法として、口頭発表にかわるものとしてポスター展示法を考慮するようという理事会の勧告が、9項目のガイドラインとともに掲載された。ユフロの各種研究集会のプロシーディングズに掲載された論文が入手しにくいことに関連して、印刷物の作成者は、抄録誌 (Forestry Abstracts, Forest Product Abstracts, Referativnyi Zhurnal) のうちの少なくとも2誌に1部あて送るように勧告している。その他、研究集会の報告、第8回世界林業会議におけるユフロ関連報告一覧、出版物一覧 (1972~1976分の補足、1977, 1978)、研究集会予告など。

== IUFRO ANNUAL REPORT 1978 ==

7月はじめに1978年の年報が届いた。主な内容は、理事会メンバー、部会・分科会、特別分科会・専門研究会の役員の一覧、部会別報告、事務局報告、会員異動 (新規加入普通会員11か国14機関、準会員8か国9名、退会: 米国3機関)、財務報告である。会長の緒言によると、1978年の活動は54研究グループ (分科会、特別分科会) の171専門研究会によって支えられ、世界各地で開催された研究集会は46に及んだ。事務局報告によると、1978年末の会員機関は87か国、508機関とされている。なお役員について興味ある分析をしてみました (5ページに掲載) のでご覧下さい。

== 第3部会長の交代 ==

5月7日の会長から評議員への連絡によると、これまで第3部会長をつとめてきたカナダの Dr. Ross SILVERSIDES は本国での組織改編によって離任、規約および内規によって同部会長代理であったオランダの Morten BOL 教授が残任期間の部会長をつとめることとなった。

== ユフロのしおり ==

ユフロの目的、組織などを解説したしおりが、英、仏、独、西の4か国語で完成した。加盟機関の会員には近くその英語版が届けられるはずである。

== IUFRO NEWS No. 24 (1979. 2) 抜粋 ==

リーゼ会長の巻頭言で第3部会長の交代が正式に発表された。理事会、評議員会、部会関係役員の最新版、および現時点での研究単位一覧が紹介されている。

	分科会	特別分科会	専門研究会
第1部会	9	3	39
第2部会	10	3	70
第3部会	4	2	12
第4部会	5	5	21
第5部会	4	3	22
第6部会	6	0	9
計	38	16	173

ほかに研究集会の予告、研究グループからの情報など。

☆☆☆ ポスターディスプレイ ☆☆☆

大方の読者は、IUFRO NEWS 23号(1979. 1)に「集会でのポスターの利用」というトピックスが載っていたことに気付かれたと思います。専門分野だけでなく言語も多岐にわたる国際集会での意志の疎通をよくする方法として理事会が検討したもので、従来の形式ばった口頭発表にかわる方法の一つとしてポスターディスプレイ法が勧告されたわけです。

丁度大会運営の方法を検討しはじめていた矢先のことで、第17回大会で部分的に採用してみようということになりました。他学会で実施された例なども参考にして論議を重ねた結果ほぼ成案をえましたので、その概要と予定されている手順をご紹介します。

申込みから発表までの手順: 所属する部会長に発表の意向を申入れる。部会長に受理されたものは所定の期日(1981年4月1日の予定)までに部会長に要旨を提出する。この要旨は大会登録時に配付するプロシーディングズに含められる。

実施方法: 発表者はポスター展示会場で割当てられるパネル壁面にあらかじめ用意してきた図、表、写真などを貼りつけ、与えられた時間内その位置にいて参会者に説明するとともに質疑応答に応じる。

前大会を例にとってみますと、部会によって事情はかなり異なるようですが、いわゆる討議論文に十分な配慮が与えられない場合が多かったようです。17回大会でも討議論文は受理されることになるとは思いますが、組織委員会としては「ポスター展示による発表」を木大会の一つの目玉と考えており、進んで応募されることを希望しています。一般的にいって日本人は外国語に堪能ではありませんから、形式ばった口頭発表は必ずしも楽ではありませんが、ポスター展示法によれば対話方式になり、直接、図、表、写真を指しながら比較的気楽に意見が交換できると考えられます。組織委員会がポスターセッションに力をいれている一つの理由はここにもあります。

☆☆☆ IUFRO 役員はどんな人? ☆☆☆

最近ウィーンの本部からとどいた年報 1978 年度版によれば、昨年末現在の機関会員数は 87 か国の 508 会員で、'77 年よりも 5 か国ふえている。本部に登録されている研究者の数は、約 8,000 人である。

年報にはトップから末端グループに至る数百人の役員名がのせられている。これらの世話役の出身国を交通整理してみると、この大組織の輪郭が少し見えてくる。

<理事会> 会長：リーゼ(西独)、副会長：佐藤(日本)、前会長：ノルウェー、事務局長：オーストリア
地域代表理事：フィンランド・仏・ポーランド・伊・米・ブラジル・ナイジェリア・イラン・ニュージーランド 各 1 名

会長指名理事：ソ連・スウェーデン

FAO 代表：伊、オブザーバー：日本(松井)

各部会々長：ユーゴ・西独・オランダ・仏・米・オース

IUFRO 規約第 7 条にいわく「理事会の構成員は、な

んらかの資格でメンバー機関に属している卓越した研究者の中から、すべての大陸が代表されるような方法で選ばれる」。現実には、創設以来その発展に情熱を傾けてきたヨーロッパ大陸勢が、23 人中の 13 人を占めている。

<各部会>

所属する分科会と専門研究会の会長・同代理など世話役 429 名の内訳は表のとおり(兼務者が 30 余名いるので実数は 400 名弱とみられる)。

第 2 部会はグループ数も世話役の数もとびぬけて多い。役員数の多い上位 10 か国(47 か国中)はいわゆる西側先進国で、ソ連がわずかに 4 名に対し、アメリカは 97 名。各部会の幹事の出身国も考慮すると、ヨーロッパ色の強い第 1, 6 部会、アメリカ色の強い第 2 部会、北寒地色の第 3 部会、経済大国の第 4 部会、英語色の第 5 部会 etc. いろんな想像が可能である。(若林)

各部会に役員を多く出している国 10 傑

部 会	1 森林環境 造 林	2 森林植物 森林保護	3 森林作業 工 学	4 計画・経済・成長 収穫・経営・林政	5 林 産	6 一 般	
部会長	ニ ー ゴ	米	オランダ	西 独	豪 州	フ ラ ンス	計
同上代理	オランダ	オーストリア フィンランド	フィン ランド	英・米	カナダ・英	ノルウェー	
グループ 数	50	83	18	31	29	14	225
役員数(人) (同 %)	68 (16)	187 (44)	42 (10)	57 (13)	43 (10)	32 (7)	429 (100)
① 米	11人	42人	5人	16人	10人	3人	97人(23%)
② 西 独	11	14	4	7	5	6	47 (11)
③ 英	2	16	1	3	6	2	30 (7)
④ カ ナ ダ	6	10	5	2	2	1	26 (6)
⑤ スウェーデン	1	7	7	6	2	0	23 (5)
⑥ フ ラ ンス	4	8	0	1	4	2	19 (4)
⑦ 日 本	2	10	4	1	2	0	19 (4)
⑧ オーストリア	7	5	1	4	1	0	18 (4)
⑨ 豪 州	3	10	0	1	1	1	16 (4)
⑩ フィンランド	1	2	4	6	1	0	14 (3)
10 か国/全体	71%	66%	74%	82%	81%	47%	71%

☆☆☆ IUFRO 組織の和訳名 ☆☆☆

IUFRO の組織について、これまでまちなちな和訳名がつけられていましたが、この機会に統一的なものを申合わせてはということになり、総務・研究両部会で討議した原案を組織委員会第 1 回幹事会に諮って了承をえましたので、こんごはこれによりたいと思います。

Congress 大会

International Council 評議員会

Executive Board 理事会

Division 部会

Division Coordinator* 部会長

Subject Group 分科会

Subject Leader* 分科会長

Project Group 特別分科会

Project Leader* 特別分科会長

Working Party 専門研究会

Chairman** 専門研究会長

* 印の deputy, ** 印の co-chairman はいずれも代理と訳す。なお、大会時に編成される Congress Group は大会分科会、その chairman は座長としました。

ユフロJレポート

— 日本委員会会務報告 —

★昭和54年度 IUFRO-J 第1回幹事会

1. と き：昭和54年7月26日(木) 13:30~
2. と ころ：日本林業技術協会会議室
3. 出席者：松井議長，土井幹事長，平田(東大)川名(農工大) 陣内(筑波大) 片岡(日大) 佐藤(諸戸研)の各幹事，雨倉(主事)

4. 協議事項

1) 経過報告

(イ) 組織委員会を初めとする各委員会が組織されそれぞれ活動を開始した。

(ロ) 第1回アナウンスメントの原案を作成中である(今後の取扱い手順については組織委員会第1回幹事会議事4を参照されたい)。

2) IUFRO-J 特別会計の取扱いについて

日本大会開催のための運営経費の実行予算案が説明された。54年度は総額 19,605 千円となり，その原資について日本委員会の特別会計の協力要請があったので 600 万円を限度として貸出することを承認した。

3) 資金調達に関係もあり大会参加費の先納・分割方法を検討することとなった。

4) 募金について

大会の予定経費は 27,300 万円であり，このうち林業関係団体に対する募金負担額は 8,600 万円となっている。さらに IUFRO-J としてはこのうちから 2,000~3,000 万円が割当てられている。そこで募金対策委員会を設けて協議することとなった。

— ユフロ学術賞の募集 —

ユフロ学術賞規定による推薦依頼が7月1日付でリーゼ会長から各会員機関に届いたことと思います。この学術賞は，ユフロに含まれるあらゆる分野の林業研究における顕著な個人的業績を表彰することを目的としていますが，ユフロ加盟機関に所属する研究者で，受賞時に45才未満でなければなりません。推薦は，所属機関の責任者か，分科会または特別分科会の長またはその代理が行うことになっています。受賞者はユフロ理事会で選定され，昭和56年9月の第17回世界大会開会式の席上で授賞されます。推薦は，別に一通の推薦状をそえて，昭和

55年5月1日までにユフロ会長あて行わなければなりません。ところで，次回の授賞は日本で行われますので，日本からも受賞者が出ることは大へん好ましいことです。各機関代表の方は，この点を考慮され，推せんに当っては，当委員会事務局までご連絡下さい。

なお，参考のために第16回世界大会での受賞者は次の方々でした。P. HAKKILA (フィンランド，森林作業1935年生れ)，A. SERGEYEVICH (ソ連，樹病，1931年生れ)，A. NANSON (ベルギー，育種，1936年生れ)，J. PETTY (英，木材工学，1942年生れ)，D. REICHLER (米，森林環境，1938年生れ)。

— 会員機関別登録数 —

北海道大学	47 人	名古屋大学	36 人
岩手大学	11	三重大学	18
山形大学	18	京都大学	37
宇都宮大学	9	京都大学(木研)	25
東京大学林学科	50	京都府立大学	17
東京大学林産学科	17	島根大学	17
筑波大学	22	高知大学	16
東京農業大学	16	九州大学	62
東京農工大学	27	鹿児島大学	11
日本大学	12	琉球大学	16
新潟大学	11	王子製紙	6
信州大学	7	諸戸林業	6
岐阜大学	15	立正大学	1
静岡大学	25	林業試験場	316
合 計	871	(54.8.31 現在)	

— お 願 い —

IUFRO-Jが，昭和54年度から会則も整備して再発足したことは No. 7 の4~5ページの情報でご承知のことと思いますが，53年度の会費についても完納下さるようお願いいたします。

IUFRO-J NEWS No. 8

昭和54年9月1日

編集：国際林業研究機関連合—日本委員会事務局

発行：農林水産省林業試験場